いよいよ間近に迫る「ハートFULL」新居浜

２月１１日（建国記念の日）に開催される「差別をなくする市民の集い　ハートFULL新居浜」は、二部形式で行われます。今回は、その内の人権啓発劇「私を変えるものは・・・」の練習風景をのぞいてみました。

今回、注目したのは主人公で高校生役の白石桃菜さんです。彼女は泉川っ子教室の卒業生で現在高校１年生です。将来の夢は小説家になりたいと語っている。小学生の頃は本読みの好きな子でした。その後の彼女はどうなっているのでしょう。インタビューしてみました。「小説家になる夢はあきらめていないけど、今は、ただ漠然と小説家というのではなくって、夢への階段として舞台俳優をめざしてみようと思っています。」とのこと。夢への実現に向けて経験を積もうということでしょう。思いを持ち続けることは大事なことですね。２時間余り熱の入った練習を見ていましたが、しばしば演出の「待った」がかかり、「遅い」「長くなっている」「集中」と、ほんの２分ほどの演技に一つ一つ指導が入ります。

劇のあらすじは、大好きな従兄の結婚のことで父親が反対しているのを知り、そんな父親と意見が衝突。あれこれと思い悩む日々を過ごす高校生。そんな折、学校の活動を通して友だちや先生、家族に励まされ、大好きだった父親も自分の過ちに気づくという流れ。

この悩む日々が心も育つ大事な時期でもある高校生の姿から人権を学んでみませんか。良い舞台を見せてくれるに違いありません。地域の皆さまも一度ご来場下さい。入場整理券はありませんので、ご自由に入れます。

瀬戸会館だより
平成２６年２月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7－30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
TEL０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

人権フェスティバル　in　新居浜

昨年の１２月２２日（日）に市民文化センターで標記の会が開かれた。第一部は新居浜市おもちゃ図書館きしゃポッポの皆さんによる和太鼓演奏。郷土の秋祭り太鼓♪ドンデンドンをアレンジした軽快なリズムで会場を沸かせた。

第二部は「あした、笑顔になあれ～夜回り先生、いのちの授業～」というテーマの講演で、講師は花園大学及び関西大学客員教授水谷修さん、通称夜回り先生。水谷さんは横浜市立の夜間定時制高校の社会科教師として赴任するが、授業に臨んだ教室では生徒の足が机の上にのっている、化粧している、しゃべっている、前を向いている数人はオビエている状況。話しかけても「金八やってんじゃねえよ」などと言葉が返ってくる。そこで、まず人間関係をつくらねば授業にはならないと考え、始めたのが夜回り。その日の夜から夜回りをスタート。当時は毎晩、今は金曜日と土曜日。

そして「皆さん知ってます？わが国で最も子どもの基本的人権がソマツにされているところ二箇所。家庭と学校ですよ。子どもに対して使っている言葉づかい、一般社会で通用します？わが子はわが子である前に、生徒は生徒である前に、対等な人格をもった対等な存在なんです。」と。さらに「子どもを産んだら母親ですか？とんでもない！産んだ子をやさしさと愛で育て上げ、育て上げた子に『お母さんの子でよかった。幸せ。産んでくれてありがとう』と言われてはじめて母親になる。努力しなきゃ親になれんでしょう。」とも。「生き方は言葉で教えてはいけないんです。生き方は必ず見せるんです。優しい子に育てたかったら、日々大人がお年寄りにやさしくするんです。道徳は教えるものではない。我々大人が生きている中で見せるべきものなんです。道徳を語ったら道徳ではなくなる。お説教になるんです。」と続き、耳が痛かった。

「あした、笑顔になあれ」～夜回り先生、いのちの授業～
花園大学及び関西大学客員教授　水谷　修　さん

2月の主な行事予定

5日・19日（水）－　移動図書館

11日(火)　－ハートFULL　新居浜
開場：13時　　開演：13時半

月2回（木）－　絵本・紙芝居　お話し会
泉川小学校放課後児童クラブ

2月公演
回転木馬
おはなし会
2月5日予定
10:30～11:30
瀬戸児童館

来観会
2月は
20日（木）
19:30～

人権あらかると

過去の過ち、未来の選択

ソウルから 100 キロほど南にある「独立記念館」。所要でソウル大学に行ったとき、ガイドさんに頼んで連れていってもらった。「日本人はめったに行きませんが、ご希望なら案内しましょう。でも、私はなにも説明しませんよ」と。

広大な敷地に建つ記念館は、七つの展示館からなる。その第二館、第三館に展示されている「日帝侵略」の罪状の数々は、覚悟の上で訪問した者でも予想をこえる罪の重さにたちすくむ。最後に両国関係史を歪めて書く日本の教科書が陳列されていて、ことが歴史的過去の問題ではないことを知る。

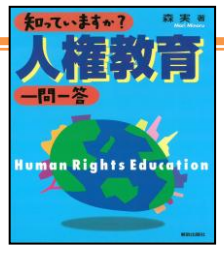
この記念館建設のきっかけは、1982 年の教科書検定で文部省が、アジア諸国への日本の侵略を「進出」と書きかえさせたことに対する批判にあった。この年、官民一体となった記念館設立運動がおこり、700 億ウォン（約 120 億円）に達する国民の募金で、1987 年に開館した。中国や韓国からの批判を受け、日本国内からも批判の声があがり、歴史家家永三郎さんの「教科書検定は憲法違反だ」とする裁判がすすむなかで、ようやくにして文部省は、教科書に南京大虐殺や「従軍慰安婦」のことを記載するのを認めるようになった。

ところが 1996 年にその中学校用教科書が公にされると、書かれていることはうそか誇大、これで学べば子どもが日本をきらいになる、悪意にみちた自虐史観・反日史観だ、誇るべき歴史を教えろ、といった批判が、保守政治家や論壇の一部から噴出してきた。文部省の教科書検定は、憲法第 21 条が禁止する「検閲」にあたり、第 23 条の「学問の自由」や第 26 条の「教育を受ける権利」からみても、事実をきちんと教えることをさまたげる制度だ、と批判してきた者にとっては、ほんの少しだがやっと日本の歴史的犯罪にふれるようになったか、と思っていただけに、やや面食らう「教科書批判」ではある。

ナチスの犯罪から目をそむけることなく「過去に目を閉ざすものは、現在にも盲目となる」と語ったヴァイツゼッカー前ドイツ大統領の言葉を思いだす。

森　英樹『主権者はきみだ～憲法のわかる５０話～』（岩波ジュニア新書）

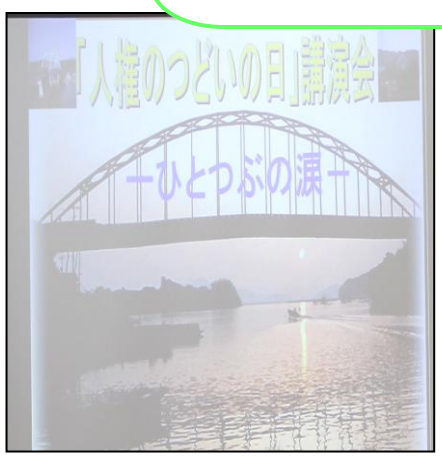
図書のご案内



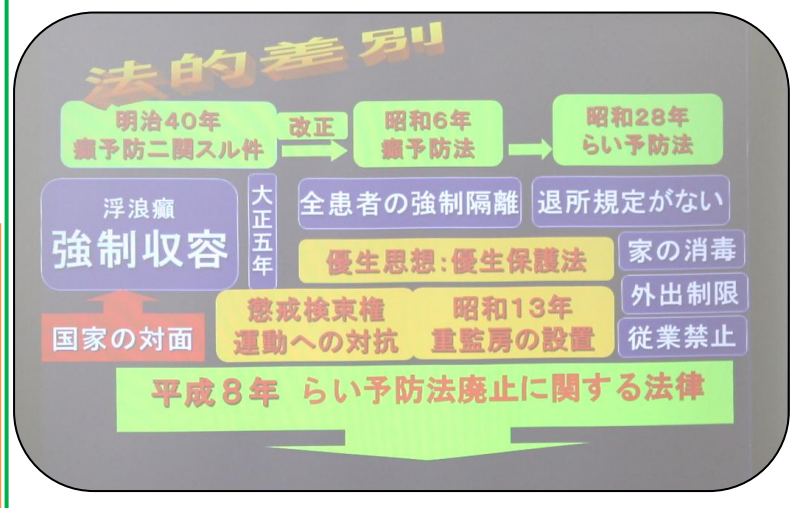
この欄では、当館に置いてあっていつでも借りて自宅で読める本をご紹介します。今回は「知っていますか？一問一答」のシリーズもので、森実著『人権教育』（解放出版社）を取り上げます。新居浜市では昭和４０年代から小・中・高校ともに人権・同和教育を実践しており、最近では小・中学校の授業を市民にも公開しています。

著者の森実さんは大阪教育大学教員。この本は一問一答の形式で私たちの疑問に答えてくれます。「人権ってどのようなものでしょうか？」、「なぜ『人間は平等だ』といえるのですか？」、「『人権』があるのなら、『猫の権利』はどうでしょう？」、「『機会の平等』とか『結果の平等』とは何ですか？」等、気になる表現が続きます。当館Ｂ室前の図書用ロッカーで皆さんをお待ちしているようです。

「人権のつどい日」にひろう



1 月 11 日(土)は、西条市氷見交友会館館長村上　進さんの「ひとつぶの涙」と題する講演を拝聴。用意されたレジメに沿いながら、ハンセン病問題を題材に人権問題を考える場を提供していただいた。

ハンセン病は遺伝病と思われていたが、実は伝染力が弱いために、密接な接触のある家族が多く発病していたことが誤解をまねく一因という。「本来は治る病気、普通の病気が『特別な病気』に変えられていったことに偏見や差別が生まれた」のであり、それを決定づけたのが国の政策だった、と。全ての患者を強制的に収容する法律をつくり、強制労働もさせる。治っても「退所規定」をつくらなかったため、療養所からは出られないしくみだった。

西条市出身の入所者の一人は「私の孫がなんのこだわりもなく『僕の爺ちゃんはハンセン病だった』と言える『ふるさと』を創ってほしい」と語ったという。村上さんは最後に「何事も自分との関係でつかんでないと、無関心になる。」、「差別というのは、部落差別もそうですが、人間がつくったものです。だから人間の手で必ず解決できるんです。また、そうする責任があるんです。」と力強く話された。